

稻村七郎左衛門家文書 (山辺町)

一 紅花代金子之事

右者当寺方丈御取次ヲ以、江俣村高松寺様ヲ去々卯年紅

花仕入正ニ借用仕差支ニ御座候所、返済方何連とも出来

兼候ニ付、既ニ御公訴ニ相成可申之所、要害村少林寺様

并大塚村弥五郎殿御取唆被下、右趣意者当金四拾兩江俣

和尚様へ返済仕、残金六拾兩之処要害少林寺様御発起之

頼母子講江加入致居、引当次第ニ江俣江返金可仕様之取

扱ニ御座候得共、当金四拾兩逆も出来兼、沽脚ニても不

致候而ハ、相成不申処、当地七右衛門・六右衛門・利三

郎願入書面之金子左之通

一、金四拾兩也

右者江俣高松寺様へ返済可致金子、右三人立入、此度貴

殿へ願入、書面之金子四拾兩江俣ニ返済仕候処実正明白

ニ御座候、其上少林寺様御発起頼母子講へ出金之所、兩

度相掛可申分、貴殿御出金被下候様、利三郎・六右衛門・

七右衛門ヲ以願上候処、此度御承知被成下、家内相統仕

難有仕合奉存候、当年柄ニ付、春中八会合之所、休ニ罷

成、当秋中ハ兩度御出金被下候へ者、其後者拙者共出金

仕、右頼母子講へ少茂御苦勞相掛申間敷候、為後日仍而

如件

丹次郎 ㊦

七兵衛 ㊦

七太郎 ㊦

理三郎 ㊦

七右衛門 ㊦

六右衛門 ㊦

稻村七郎左衛門殿

二 乍恐ケ条書を以御願申上候事

(手遠之紅花買入、色々謀計之義ニ付)

乍恐ケ条書を以御願申上候事

一、去辰之秋中、手遠之紅花拾式駄程買入、差金等ニ難

洪仕、御地理三郎殿山野辺弥八郎殿江御救被下度段相
歎、貴殿御名前を以、山野辺大庄屋渡部庄左衛門殿方
金子借受被下、紅花ハ不沙汰成候得共、元來手遠仕候
故、紅花荷物も弥八郎殿へ引渡し、首尾能京都表江為
差登仕候後、色々謀計を以□□□御納方々金取後ハ、
名主元ニ詞を御飾り取詰候、弥八郎方へハ利三郎殿罷
登り候事ニ、取捨正立之砌ハ、利三郎殿供同様ニ申立、
京着仕候已後直段茂取扱通りニ参り不申候ニ付、利三
郎殿ハ帰国ニ相成、其節同道致し可申筈之所、内心ニ
悪計有之、跡ニ残り紅花差向候問屋吉文字屋彦市へ馴
入候、凡金高百七拾兩程貴殿之御手元ニ而、御繰合被
成下候分、荒増損毛申立、荷物自分之勝手ニ押領仕候
段、申訳も無之任合ニ御座候、数度京都へも売留之御
書面到来仕候儀、其仰ニ随候へハ、相応之徳ニても相
成可申所、今更後悔仕罷在而已、右之始末弥八郎殿曾
貴殿江御断も無之、私ニ任セ置候段、不得其意候儀ニ
被思召、弥八郎殿相手取、右損毛之金子弁金を致候様
之御立腹、重々御尤至極ニ奉存候、右之訳合茂何れは

弥八郎殿江すかり、御申訳相立候様ニ可仕候間、何卒
御勘弁被下、此節御納方金取後茂取上ケニ相成、御出
入も不相叶事ニ罷成候而ハ、妻子之相続も相成兼、歎
ケ敷義ニ奉存候間、何卒御宥免被下度奉願上候、右紅
花ニ而押領仕候分ハ、急度始末可仕候、左様ニ差置候
ハ、其砌弥八郎殿へ嚴敷御懸合ニ相成、同人方如何
様ニ被申懸候共、自業自得之罪ニ御座候ハ、御恨茂
仕間敷候、捨置候へハ後難出来候哉、是非当十月迄ニ
ハ訳合相立御願出奉申上候、暫く御猶予之所、須奉願
上候

一、先年私所持之田地金式拾兩借用仕、貸地ニ致、御同
地御自由可被相勤而已仕、自分者勝手ニ支配致し、其
外山野辺七十郎殿名前にて、金四拾兩也是又同様ニ、
数年来利足等茂一向御勘定不申候、剩御同地同処共ニ
自由仕候故、恐入候義ニ奉存候、既ニ去巴大違作ニ而
御納方ハ至極難儀ニ付、諸方へ賃地方御才足被下候砌、
去春中方加判之もの我假申立候故、御出訴被成思召候
而、柴橋御役所迄御出張ニ相成候所、重々御尤至極ニ

奉存候、是又当年十月中ニハ、元利共ニ兩様相揃、判懸り之もの立会、聊無相違相片附可申候間、此度御呼出しニ可相成候所、御差控御訴訟御申下ケ被相成度奉願上候、此節御呼出しニ相成候而ハ、加判のもの一同難渋仕候間、暫く御宥免被成下候ハ、難有義ニ奉存候

一、其御納方先年筆取改仕居、去々辰年ヲ登參仕居、御名主手元御用之筋差支ニ相成、夫丈御名主御手元ニ而筆後同様のもの御遣ひ被越候ニ付、貴殿方私給米差出し候様の懸合も有之由、以の外之始末ニ御座候、全躰私偽り飾り候事起り、聊貴殿へ御難題等可申懸筋無之儀ニ御座候間、行違之所ハ御高免偏ニ奉願上候

一、去春中私留主中、色々御懸合事ニ付、家内之もの必至と難義仕候ニ付、諸親類之もの共申合、山野辺御役所へ御心附候様ニ愚妻ニ申合、既ニ大庄屋迄御召出ニ相成、久右工門留主中万事勘弁可然、段々御利解義有之候様子驚入義ニ奉存候、自分之不埒乍有之、却而利不尽之様ニ、御上ハ勿論大庄屋迄あしなに申聞候段

段々御立腹之様子、恐入候儀ニ奉存候、是等之儀ハ如何悴ニ茂心得違之訳合、申出御披可仕候、誠ニ齟齬致候義ニ奉存候、逸々御利解承り候而、恐入候間是又御猶予之程奉願上候

三 仕切（紅花代金）

△ 仲間

現金五拾兩替十八入

一金五拾三兩三步貳朱

△ 谷
上 印紅花三丸
十五袋取

銀壹匁五分七厘

△ 壹駄五袋取

分分

同金四拾五兩替

一、金貳兩

同清仕印 三袋取

銀六匁五分六厘

銀五拾五兩三步貳朱

銀八匁四分三厘

右之通御相對を以買請、紅花代金此度不殘相渡、此表無
出入相濟申候、万一算用違等御座候ハハ□□□□相互ニ
御指引可被下候、為後日依而如件。

寛政十年

伊勢屋

午六月晦日

理右衛門印

麻屋久兵衛殿

四 仕切 (紅花代金)

現金三拾六兩貳步かへ

一金三拾八兩三步 △ 改極 御印 最上花壹駄四袋
信形

壹匁八分七厘

同金三拾四兩かへ

一金貳兩貳朱

同信紅御印同花 四袋

銀壹匁八分七厘

右之通御相對を以買請申紅花代金、書面之通不殘相渡シ
此表無出入相濟申候、万一拔袋蓮花等有之候ハハ、重而
御指引可被下候、為其仍而如件

文化十三年

若山屋喜右衛門印

子十二月

稻村七郎左衛門殿

村居 清五郎殿

五 算用目録之事 (紅花代金)

七月廿一日

一七匁七分九厘

右者御買物仕切下り為替取組請取候

残銀かし

九月廿八日

一貳拾老匁貳分

右者紅花四箇江戸丸屋甚右衛門殿より出シ積運賃銀、

壹箇ニ付五匁三分ツツ

一貳匁

右者紅花藏敷水上賃

四口ノ 拾貳貫六百三拾匁九分貳厘

差引残四貫八百九拾老匁八分三厘

返上銀也

右之銀御代宇右衛門殿へ相渡、此表無出入相済し申候

以上

寅十一月

大和屋作右衛門印

内

一拾貳貫五百九拾九匁九分三厘

右者此度御買物別紙仕切状之表引

稻村七郎左衛門殿

十月十三日

一貳貫八百三拾七匁貳分五厘

右者金四拾五兩ニ而京近江屋惣左衛門殿より入兩かへ

六拾三匁九分

十一月三日

一七貫七百八拾貳匁六分

右者白苧仕切銀之由ニ而南部日野屋次郎八殿より入

同日

一六貫九百貳匁九分

右同断南部秋田屋助左衛門殿より入

三口ノ 拾七貫五百貳拾貳匁七分五厘

同 宇右衛門殿

銀々 拾三匁六分

白銀屋陸助

酉十二月

六 覚 (紅花荷送り)

稻村七郎左衛門様

近江屋惣左衛門様

△天上 片馬紅花

八月十四日 此上賃

壹丸近惣殿へ 壹匁七分

八月廿四日

壹丸若孫殿へ 壹匁七分

同七極 壹駄片馬八

八月十四日

壹丸近惣殿 壹匁七分

八月廿四日

三丸若孫殿へ 五匁壹分

九月六日

貳丸若孫殿へ 三匁四分

七 紅花元金覚

一金百四兩貳朱ト五十壹文 惣代金

右之拂代金百拾壹兩壹歩ト貳百五十文

内三兩まけ

差引金百八兩壹歩ト貳百五十文

差引得金四兩貳朱ト百九十九文

貳ツわり貳兩ト四百九十九文ツツ

此分紅花出金ニ山高差引ニ入スミ

紅花出金

△△出

二口

金百四兩二朱ト五十壹文

同金三兩貳朱 六七八三方月分

同金三歩 延金利足見ル

元り金百八兩ト五十壹文

此拂代金百拾壹兩壹歩ト貳百五十文

差引得金三兩壹歩ト百九十九文

内金三兩 まけ

差引 金壹歩ト百九十九文

此勘定ハ損得勘定致候のみ

紅花代

一金五拾壹兩三歩貳朱ト

百五十壹文

△出シ

一金四兩貳朱ト壹貫百文

小買

一金三歩

△

金五拾六兩壹歩三朱ト五拾壹文

差引金八兩□歩餘計ニ出し候トミル

壹歩ト八十文 三カ月

金五十六兩貳分三朱ト百三十壹文

金貳兩ト四百九十九文 半金得

金五十八兩貳歩三朱ト六百三十文

一金三拾六兩壹歩 正金渡し

金九十四兩三歩三朱ト六百三十文

八 御荷物積附(紅花)

△ 緑 最上紅花 廿二入貳丸

雨 井一入壹丸

木嘉殿行

同松 拾入四丸

造り合拾入壹丸

最喜殿行

同 最上
紅 〃 井入四丸

吉文彦殿行

拾貳丸

丹後宮津

袋屋六郎右工門船

九月九日出帆

右之通積附仕候間御案内申上候以上

九月七日

尾関又兵衛

稲村七郎左工門殿

御荷物積附

六九
雨 紅花 拾入三丸

同 作合 同 十七入一丸

木嘉殿行

同 松雨 同 井入三丸

同 作合 同 拾入一丸

最喜殿行

八丸 □□上ケ

加州氣十崎

木谷清七船

九月十七日出帆

右船へ積入出帆仕候以上

酉

七月十四日 尾関又兵衛

今井治郎七様

九 仕切 (紅花代金)

金貳百六兩貳分

差引殘金四拾壹兩貳分

銀七匁七分六厘

右之通壳附、紅花代金不殘相渡シ、此表無出入相濟申候、

若万一算用邊拔袋等御座候ハ、御遲御差引可申候、為

後日仍而如件

若山屋喜右衛門

印

寛保三年亥六月

稻村七郎左衛門殿

同 六右衛門殿

一、金百七拾六兩

但四拾四兩替

久一 飛 直干紅花四駄

但四拾六兩替

一、金七拾兩壹歩

△ 宮 同花壹駄片馬

式袋

銀拾壹匁六分三厘

内壹袋金印有
右おしこも也

一、金壹兩貳歩

但二拾六兩かへ
令同花 三袋

銀拾壹匁六分三厘

金貳百四拾七兩三歩

銀貳拾三匁貳分六厘

此金壹分七匁七分六厘

右之内へ

三月十三日

一、金貳百兩

六右工門様へ相渡ス

此利金六兩貳分 三ヶ月半壹分三つ同様

一〇 仕切（紅花代金）

一、金七拾五兩
△大 但現金壳
極上 最上紅花沓駄

一、金九拾貳兩貳步
七大 但現金七拾七兩替
極上 同紅花沓駄拾三袋

一、金壹兩
△大 但現金七拾九兩かへ
同久一 同紅花沓袋

銀拾四匁五分

ノ金百六拾八兩貳步銀貳拾三匁貳分

右之通相對を以売買任、代金不殘相渡、無出入相濟申候、
為後日之仍而如件

松任屋鎚兵衛 ㊦

延享貳歲丑極月十五日

稻村七郎右衛門殿

同 文治郎殿

一一 仕切（紅花代金）

一、金百拾壹兩と
△大 現金御手取金沓駄三付七拾九兩替
同久一 最上紅華

端銀五匁八分沓厘 沓駄貳拾六袋

右之通御相對を以買請代金、不殘相渡候、此表無出入相
濟申候、万一抜袋等有之候ハ、重而互二指引可申候、
為後日之仍而如件

延享貳年丑極月

稻村七郎左衛門殿

同 文次郎殿

池田屋五兵衛 ㊦

仕切

一、金四拾壹兩貳步 但現金三拾八兩替

銀三匁七分五厘 △分 最上紅花沓駄六袋

右之通相對を以売買仕、代金不殘近江屋惣左衛門殿江相

百三拾又七百元

渡、無出入相濟申候、若算用違拔袋等御座候ハ、互指

内十式又五百八十匁 風袋

引可申候、己上

又 式又貳百五十匁 切め

松任屋徳兵衛 印

正味百拾五又八百七拾匁

寛延三歲午三月二日

壹又七百五十匁かへ

稻村七郎右衛門殿

代金六拾六兩と

近江屋惣左衛門殿

十式匁六分八厘

内

一、三十三匁壹分 持銀

一、九十九匁三分壹厘 歩銀

一、八十六匁七厘 口せん

一、九分貳厘 初尾

一、壹匁四分 平月取替

金三兩貳歩と

十匁八分

引殘金六拾貳兩貳歩

壹匁八分八厘

一二 仕切（紅花代金）

小判六拾目割

一、丸△印 最上拾九固

十四又六百元 三

十四又七百元 三

十四又五百文

十四又四百文

十三又九百文

右之金銀不殘相渡、此表無出入相濟申候、仍而如件

曾我屋嘉平次 ㊦

安兵衛殿

宝曆元年末十一月十七日

稲村七郎左衛門殿

同 安兵衛殿

(貼紙)

目錄

一、金六拾貳兩貳步卜 仕切表

壹匁八分八厘

内

一、八匁 金貳拾貳兩分切替へ

引残テ

金六拾貳兩壹步卜

八匁八分八厘

此錢六百四十五文

右之通此度相渡し、此表無出入相濟申候、己上

曾我屋嘉平次 ㊦

宝曆元年末十一月十八日

稲村七郎左衛門殿

一三 仕切状 (紅花代金)

△極上印 但三拾八兩かへ 但拾六袋入

一、金拾九兩 無粉花 貳丸

△上飛印 但拾六袋入

一、金三拾六兩 同花 四丸

△七林印 但拾六袋入

一、金三拾壹兩 同花 四丸

△金八拾六兩

但歩引口錢引御手取也

内

一、銀拾七匁四分

右御荷物大津駄賃 六拾八匁七分五厘之処、手板掛り 五十五文有、引残テ如此

一、銀九匁三分五厘 歩判切ちん

一、銀貳拾五匁四分 金子下し駄賃割

銀五拾六匁壹分五厘

此金三步下銀十一匁九分

引殘金八拾五兩下銀貳匁八分五厘也

右之通相對を以売買仕、代金大黒屋飛脚ニ差下し、不殘相渡シ、此表無出入相濟申候、若算用違又者拔袋等御座候ハ、重而差引可仕候、以上

若山屋又兵衛 ㊦

宝曆二年申九月廿八日

稲村七郎左衛門殿

一四 仕切状 (紅花代金)

七月切り

一、壹貫八拾匁

△大飛 壹駄

但し壹メ兩替

一、八拾三匁三分四厘 同小荷 貳朱

銀壹貫百六拾三匁三分四厘

内

三拾八匁四分 三步之引

五匁 口切り

拾匁三分 風袋引

拾壹匁六分三厘 口錢引

三拾六匁貳分三厘 右四口引残り

銀壹メ九拾八匁

銀百壹匁五分六厘 三分三法掛

殘銀

銀壹貫六拾壹匁七分八厘

内

四月晦日 六壹三八

一、九百貳拾匁七分 金拾五兩

大坂伊勢屋へ下ス

一、貳拾三匁壹厘 二ヶ月自利足

一、五分五厘 大坂江下ス駄ちん

銀九百四拾四匁貳分六厘

指引残り

百拾七匁五分貳厘

六匁三八 此金壹両三步拾匁壹分

右之通相渡し無出入相濟申候、若湯入抜芋輕目御座候ハ

、重而御指引可仕候、以上

愛知川屋長右衛門 印

宝曆八歳寅五月

稲村七郎左衛門殿

西川源助殿

△森谷 十七八四丸

代金四拾六両下 酒田着

永拾匁 △払

外ニ金壹歩下 酒田掛り

永廿四匁九分壹にて相濟

△金四拾六両貳分下

永九匁四分壹

同車 六拾四袋

同夕子紅 拾貳袋

△七拾六袋

代金四拾九両三分 酒田着

外ニ

金壹歩下 △払 酒田払

貳拾貳匁七分五

△金五拾両永廿貳匁七分五

同村 十八八八丸

代金八拾三両貳分 大石田着

永拾五分貳

一五 子之紅芋買目録

(表紙)

寛政四年壬子極月 村居清七

子之紅芋買目録

△様

紅花買入

外二金壹兩

同所添金

永七匁八分

又金壹歩下

酒田方運賃不足

但し右八匁為登才料政吉

永拾八匁五分四厘

△御払

同達

十八匁四丸

〆金八拾四匁三分

永廿三匁五分

〆代金五拾五匁二分

京着

同王

十七匁四丸貳袋

永拾六匁五分

同天

十七匁三丸拾五袋

但し右同断 才料重吉

〆十七匁八丸

大石田着

同源

拾四袋

代金八匁下

京着

代金百貳匁三分下

大石田着

永四匁七分六

永拾七匁九分

八口〆金四百八匁貳歩下

永五匁壹分七

外二一、金壹兩

大石田方添金

一、金壹歩下永七匁

酒田方運賃不足

但し酒田懸り物△御印御払之分

△御払

此度金指引ニ入御渡申候

〆金百四匁下

右者京着之分

永廿四匁九分

外二

一、金七拾匁三分

惣印百四拾貳袋

同船

十八匁四丸

永拾五匁貳分

〆代金五拾八匁三分

京着

一、金拾五匁壹歩下

三印廿八袋

永拾七匁八厘

一、金貳拾八兩壹分 利印五拾五袋

永卅匁

一、金三兩卜 小買貳メ七百六拾匁

永五匁

四口ノ百拾七兩三分卜

永七匁貳分八

兩口ノ金五百貳拾六兩壹分

拾貳匁四分五

右者惣売り仕仕舞仕分可仕候、以上
(ノ)

村居 清七

権太郎

寛政四壬子極月改

稲村七郎左衛門様

同 久米之助様

同 久治郎様

一六 紅花代金不足分立替拂

酒田掛り不足金紅荷分御拂立替

子三月廿七日

一金壹歩卜

永貳拾貳匁七分壹

紅花七駄

御拂

子新し花
一金壹歩卜

永貳拾四匁九歩

△ 森
八仕四丸

御払

一金壹歩

永七匁

同天
八丸

右同断

一金壹歩卜

同村卜
八丸

永拾貳匁五分四

右同斷

稻村七郎左衛門様

一金壹分ト

同平 四丸

同 久米之助様

永貳拾四匁

右同斷

一金壹歩ト

同 村ト 八丸
善ト

一七 古花為登

金貳兩壹分ト

永貳匁七分五

亥ノ古花残り子春為登

△久 紅花 九袋

代金五兩壹分ト

一金五兩壹分ト

子下し古手

永九匁四分壹

永拾四匁貳分

酒田掛り御拂

内金壹歩ト

山形より惣送り割

金七兩貳分ト永拾六匁九分

右之通り金指引ニ入御渡し申候以上

引残而

金四兩三分ト九百廿八文

村居清七

此永十七匁貳分

同 権二郎

寛政四壬子極月

右之通金指引入済申候

子ノ

五拾貳兩貳包

△高生

十六入四丸

十八入三丸

代金九拾五兩三分貳朱

内

一金老兩老分

銀三匁六分貳厘

一拾五匁四厘

貳朱打

一九匁九分六厘

江戸送賃

引残而

金九拾四兩ト永拾三匁老分六厘

内老又三百拾六文

江戸奥太賃

引残而

金九拾三兩三分ト七分六厘

右之通り金指引入済申候以上

内金五兩老分

掛り物たちん引

拾老匁老厘

引残而

金六拾八兩三分ト老匁四分貳

此永貳匁四分四厘

右此処金指引入相済申候以上

村居清七

同 権二郎

寛政五癸丑

正月

稻村七郎左衛門様

同 久米之助様

同 久治郎 様

一八 仕切(紅花代金)

添代

子四月廿一日
一金七拾四兩ト拾貳匁五分四 藤屋嘉兵衛さまへ

御手取現金四拾五兩也

辰△仲

一金五拾三兩壹步貳朱

銀三匁七分五厘^(五)

△二 八印 最上花 壹駄拾貳袋

己分

同金 四拾八兩也

一金五拾四兩

同舟 飛御印同花 壹駄八袋

己分

同金 四拾六兩也

一金六拾四兩貳步貳朱

銀三匁七分五厘

同羽御印同花 壹駄貳拾六袋

己ノ△仲

同金四拾五兩也

一金百壹兩壹步

同沖御印同花 貳駄拾六袋

ノ金貳百七拾三兩壹步

銀七匁五分

右之通相對を以買請申紅花代金□□之通不殘相渡此表無
出入相濟申候、万一拔袋違花有之候ハハ重而御差引可被
下仍如件

寛政九己年三月

若山屋喜右工門

麻屋久兵衛殿

一九 仕切 (紅花代金)

△古梅紅花 十九入三丸卜拾壹袋

ノ壹駄卜四袋

金五拾兩也

代金五拾三兩貳朱也

右之通御荷物買請代金不殘相渡、此表無出入相濟申候、
万一拔袋違花等も御座候ハハ重而御差引可被下候以上

寛政十年

藤屋

午四月晦日限

忠兵衛

稻村七郎左衛門様

麻屋久兵衛様

稻村七郎左衛門様

麻屋久兵衛 様

二〇 仕切 (紅花代金)

二一 仕切 (紅花代金)

^{辰分}△_{仲間} 玉印 紅花 十九入 三丸卜貳袋

^{辰ノ}△ 芳 仕切 紅花 四袋

^{辰分}△_{仲間} 力印 十六入 壹丸卜拾五袋

金三拾九兩貳歩かへ
× 壹駄卜貳拾六袋

^分△_{仲間} 同 千 貳袋

代金五拾五兩貳歩卜貳匁八分壹厘

右之通相對を以、御荷物買受代金不殘相渡、此表無出入

相濟申候、万一拔袋違花等も御座候ハハ、重而御差引可

被下候以上

^{巳ノ}△_{仲間} 同 玉紅葉 七袋
金拾六兩かへ
金四拾五兩かへ

寛政十年戌午六月廿九日

代金四兩三步貳朱卜貳匁八分壹厘

藤屋忠兵衛印

己ノ仲問
同 北トヒ

壹袋

金貳拾兩かへ

代金壹歩ト三匁七分五厘

己ノ仲問分
同 奈良

五袋

金五拾貳兩かへ
トヒ

代金四兩ト三匁七分五厘

金□拾壹兩壹歩貳朱ト銀拾匁三分□厘
(虫)

右之通買受代金相渡、無出入相濟申候以上

藤屋忠兵衛㊤

寛政十年午七月十九日

宛名ナシ
稲村七郎左工門

二二 乍憚書付ヲ以奉願上候 (紅花代金訴訟)

乍憚書付ヲ以奉願上候

一紅花商之義者、佛様御之言有之、商イ不相成品ニ御座候処、去卯年私共三人密談仕紅花六七駄買入候処、御藏重ニ御差出被下、是迄買入之分地拂ニ致、跡決而買入不申様山形七日町平田弥右工門殿ヲ以被仰付候ニ付、同人へ引合相拂可申と存候所、存外之損金有之拂兼、乍去御理解之程奉恐入候御儀ニ御座候故、仰之通地拂ニ可致様御挨拶申上置見合罷有候所、世間商人花荷物北国辺ニ而数艘難船有之様相聞、歎之上之悦と尚又深相談仕、貳拾駄余買入候所甚心得違仕候、然ル所紅花直談俄引後何分ニも致方無之、上方へ為相登可申様密ニ相談仕、忘書等取繕イ金主相頼、右支配として七兵衛・七太郎・丹次郎・山野辺宇七追々罷登京着仕、北国難船之様子紅花直段等、諸方へ手ヲ廻し相窺候所、難船之様子ハ相訳リ不申、紅花直段者下直ニ而容易ニ支払候事成兼、大勢長逗

留仕候へ者、日々入用相嵩、殊ニ七太郎大病相煩旁々ニ
 而入用余計相掛、逆も利運ニ不相成、無拠荷物皆拂後仕
 拂等仕候所、道中入用不足ニ而帰国も不相成所、最上商
 人方金子借用罷下り、然ル所諸方引合ニ相成、何分ニも
 申訳無之、当分紛之挨拶のミニ而罷有候処、山形土屋源
 兵衛方御訴訟ニ相成、御嚴重之御吟味ニ而忘書等相顯
 レ七兵衛・丹次郎入牢被仰付、其上御本家ハ不及申親類
 一統奉掛御苦勞、是全私共三人泥私欲心得違故と恐入候
 御儀御座候、兼而御理解之砌地拂仕候へ者、ケ様後難も
 無御座候所愚味之拙者共、私欲の了簡御一統へ者一言之
 申訳無之、妻子へも手ヲ付候程之義ニ御座候、誠ニ世間
 へ恥入今更後悔仕候得共、致方無御座、己来御一統之御
 意相肖候義決而不仕候、此段御詫言申上、御本家様へも
 御出入偏奉願上候所、御承知被下置難有仕合奉存候、為
 後日書付仍而如件

天保五年午四月

丹次郎 ㊦

七兵衛 ㊦

七太郎 (印なし)

立入人
 六右衛門 ㊦
 同断
 七右衛門 ㊦
 同断
 利三郎 ㊦

二三 仕切 (紅花代金)

仕切

壹駄ニ付貳拾八両壹分替
 紅花百貳拾八メ目
 一金百拾三両也
 壹駄ニ付三拾貳兩替
 一金拾六両也
 同極上拾六メ目
 二口ノ金百二拾九両也
 右之金銀不殘相渡此表無出入相濟申候以上

藪屋茂兵工

子十一月廿八日

阿部久四郎殿

同 藤治郎殿

引残

金百八拾八両三歩

銀拾四匁

二四 紅花指引覚

一金百九拾三両三分

四十三両かへ

十八匁
へ本紅拾六包

午七月十四日

藤や忠兵衛

右之通御引合可被下候御両家様指引入申候以上

麻屋久兵衛

一六拾貳文九分五

手板不足

一廿六文三分二

貳朱永口八十八両卜十四

一拾九匁九分三

江戸たちん

百九文貳分

立替此金壹両三歩

壹文四分

一金三両也 口銭

金九拾四両三分

今様分

銀七匁

一金九拾四両三分

奈様分

銀七匁

午七月廿一日

村居清七様

井筒屋

勘右工門様

二五 紅花指引覺

一金百卷兩卷分 △仲飛 貳駄

一金卷歩と 手板不足

貳拾八匁三分

一拾七匁六分四厘 貳朱打十八匁

一金卷兩貳歩 壳口錢

×金卷兩三分

六二 四拾五匁九分四

此金貳歩拾四匁九分四

殘金九拾八匁三分

銀五分六厘

右貳ツ割

金四拾九兩壹分貳朱

銀九分八厘

分拾分

金四拾九兩壹分貳朱

銀貳分八厘

△拾分

右之通御兩家様御指引三

出喉

御引合可被下候已上

麻屋久兵衛

午ノ正月七日

村居清七様

森谷弥五兵衛様

二六 紅花買入之事

此度高楯ニ而紅花買入私シ乗合ニ仕候様預御尋

口上ニ而色々難申述候故、口上書ニ而御披露申上、

正直之心中顯シ各々様へ申出候

一先年七太郎分家ト致シ、山野辺仁左工門家屋敷受取、

七太郎伯夫婦榮七下入下女差添遣候処、親御取計ニて支

訳等之義も存不申罷有候、卷兩年相立候而家相不宜候由

以之外之入用相掛家作り等被成候而、随分都合よく相続もでき候哉ニ存候所、おきなどの死去仕、其折節親類和七始メ近所并安国寺難題申懸ケ七太郎當惑仕候而、一子榮七ヲ仁左工門家とくと定メ葬式ヲ仕舞、夫より日数相立不申内ニ和七方ヨリ色々難題申懸リ七太郎伯父大氣ニ込リ居リ、野拙ニ右之段御嘶ニ御座候、元來仁左工門家とくと被成候得者、右之故障も無之義察入候得共、親之御盆も有之義故、後悔仕居候砌り、喜七郎病氣次第ニ重く相成り、迎も留主居も相成兼候様ニ相見江、是又後出張之もの無之相尋候処、早足可然もの又七弟七五郎為見習御要向御座候と内談御座候、是又若輩もの早足用ニ相成不申、左候所七太郎様利三郎様へ御出被成御嘶ニ者、喜七郎病氣私シ難法之場兩様御了簡被成下候而、尙兩年も高橋他家ヲ御貸シ被下候様御相談被下度旨御咄シ有之候ニ付、親類相談仕七太郎格別ニ迷惑之筋有之候ハハ、当分高橋へ遣候而、榮七仕末見届候而も可然、且又近所親類ニ而もこまり候事ニ存、任其意他家ニ当分遣置申候、其節喜七郎方引渡し之品々者別紙ニ御座候、返り仕入も

のもの有之其俣ニ而罷有り、尤大切之家ニ候故、売買等ハ決而被成候様約常印堅く仕候而利三郎伯父性身へ被參候而、七五郎若もの故、当分七太郎留主居人ニ差置、尤先々より差置候通り、当家ニ表向ニ者決而不相成、内々留主居之積り相定、若シ売買もの聊ニても取組候節者、私方へ内談之上、万端取計可申様一統相談相決申候処、去々年中紅花買入候義一向ニ相聞不申罷有り、大寺久四郎、源七、山野辺弥八郎殿方他家ニ而紅花御仕入被遊、思召ニ相叶候義ニ候ハハ、右之御商仕よりハ、四五両も下直ニ手入ニ入候様相見へ次第、(總カ)ニ紅花一俵之下落ニ相見申候、返事承り度由申參り私書狀ニ而初而承り驚入候而、私シ存不申訳計り返事致シ、夫より喜七郎七十郎へ実意ヲ相尋申度書面遣シ、文言面別紙ニ御座候、(近江)往身欠有無之返答無之、依之七太郎伯父へ相糺候処、七太郎伯父參り、丹二郎進メニ而買入候と被仰、丹二郎ハ七太郎様御買入と互ニ相訳り不申、日數相立候内、為皆口聞違杯出来候由相聞、野拙儀大氣ニ心配山形弥右工門当分紅花取次当世ニ仕候故、(近江)往江相頼口錢遣候程一刻も早く

高楯買入之紅花地拂ニ仕度旨内談仕候処、弥右工門殿も
大氣ニ尤成義と、右紅花早足壳拂可申与受合、尤当分四

五十兩も損金有之様被申候得共、当家先祖之御遺言ニも

紅花買入候義ハ、決而不致様ニ差留被仰置候義聞傳候故、

親へも右之段申合セ候処、親之被仰候ニ者、丹二郎自分

ニも右紅花買入候義嘶御坐候、自分ニ乘具候様達し進メ

候と被仰付、以之外成ル不法成義ニ候と申居、左候所弥

右工門殿參り候而咄シニ者、御三人共ニ氣強ニ御坐候而、

損金杯ニ而者壳拂被成候義無之困り候と被申、其上私シ

方壳拂候義進メ候処格別ニ御案事被成間敷候、決而貴

家之御苦勞ニ相成り候義杯、決而不仕理ヲ取候而、百五

十兩損ニ而百兩ト存候杯と挨拶故、相場ハ天正之高下有

之もの故、強而内談ニおよび兼、夫きり何へも無相構差

置申候、既ニ荷造り仕舞ニ相成り荷物差下し七太郎伯父

助七兩人上京之沙汰有之、依而七兵衛様へ内談仕、助七

兩人計り上京之義、壳先も無心元存、貴公様も御同道被

遊候而、縦令損金多分ニ候共、早足御壳拂可然と一通り

御嘶申上、夫迄も色々心配任粉屋七兵衛様も御嘶申上候

二七 覺 (商用取引)

大坂南本町三丁目

木綿屋嘉兵衛殿行

拾九袋入

△最上紅

式丸

式拾袋入

同 同

壹丸

但六拾八袋之口

最上紅 拾袋

同 造

綠雨 七袋 壹丸

雨揃 三袋

△式拾袋入

京都室町四条上ル

吉文字屋彦市殿

△全△仲間

拾九袋入

⊖光
雨

三丸

六拾四袋口

拾八袋入

有 拾六袋 壹丸

同得 外二三百六十匁

雨 内三袋有徳サシ 升久口

玉サシ三百四十匁

大坂南本町三丁目

木綿屋嘉兵衛殿行

貳拾袋入

同松
雨

三丸

六拾九袋之口

松雨 九 拾九袋入

同造
合光雨 七 壹丸

サシ□三

京都両小路姉小路上

最上屋喜八殿行

八月廿六日

右江金壹両也 丸三添金出シ

同 廿七日

同 金四両貳歩 △添金出シ

×金五両貳歩 外久江相渡し

内金四両也 大石田より添金

同金壹両壹歩ト 拾六丸陸送

貳百八十八文 懸り×

差引過 壹歩之内 升久△差引二而受取

貳百八十八文 送り

二八 金銀差引覚

〔袋紐〕
天明七年未正月廿七日

金銀差引覚 (商用)

巳門伝集指引

一、金貳拾八両 牛二月切 極飛門伝

銀百五拾五匁五分 貳駄

一、同三拾九両三分 牛九月切 同 三駄

銀六匁七分貳厘

一、同百八拾七両 牛極月切 同拾八駄

銀拾四匁壹分 六連

金貳百五拾四両三分

銀百七拾六匁三分貳

内

一、百五拾三匁五分 手板不足

一、金貳両三分貳朱 御口銭申請候

残テ

金貳百五拾貳両壹分

銀三匁貳分壹厘

一、金六百五拾匁三分 白千貳番合

七拾貳駄

金九百三匁と

銀三匁貳分壹

金下シ覚

一、金百貳拾両

八月廿七日 高四百匁之内也 残貳百八拾匁ハ 巳ノ紅花代指引

一、貳拾三匁四分 大黒屋庄治郎

福嶋迄太ちん

一、金貳百七拾両

九月十二日 高四百匁也 内三拾両全印 又百匁ハ大二印

一、金貳百兩也

九月十三日
高三百五拾兩也
内百五拾兩者
大二印

一、銀三匁六分貳

同指引銀加引

一、銀拾八匁壹分五

右拾五兩切ちん

下しちん

一、九拾壹匁七分五厘

大黒屋庄治郎

金ノ七百七兩壹分

右四百七拾兩

銀三匁六分八厘

福嶋迄駄ちん

正月五日ト十一日ニ渡シ

一、金五拾兩也

九月廿八日

一、金貳百兩也

西谷伊兵衛殿為替下し

式朱貳百匁下し之内

正月晦日受取

一、銀六匁

右江戸迄太ちん

合テ

一、金五拾兩也

十月二日

伊七屋藤兵衛

右之老代

江戸為替下し之内

引残テ

ノ金六百九拾兩と

金四兩壹分ト

銀百貳拾壹匁壹分五厘

銀四分三厘

過上下シ

一、銀五匁

イセヤ江戸為替ニテ受取

計十一月十三日改

右之通金寄指引ニ入申候 以上

一、金拾五兩也

辰青芋指引過上下し

麻屋久兵衛

未正月廿二日

金銀指引覺

午十一月十三日改

一、金貳拾貳兩 過上下し

三分貳朱 紅花指引

銀五匁四分八厘 為替同断

一、金壹兩三分 森谷弥五兵衛

六匁七分六 指引加引

午十一月晦日

一、金四兩下 小指引

銀七匁九分八

一、金四兩壹分 巳ノ青芋惣指引

銀四分七厘 過上下し

指引

金貳拾九兩壹分貳朱

銀七匁壹分七厘

右之通ニ御座候、重而指引ニ入可申候、以上

麻屋久兵衛 ㊤

天明七年未正月廿二日

稻村七良左衛門様

村居清七様

二九 紅花相庭

紅花相庭 (値段以外は木版刷)

志駄ニ付

一、山形紅花 三拾四五兩方

五十式三兩迄

一、仙台南花 五十一式兩方

六拾七八兩迄

一、同 奧花 四十六七兩方

六拾兩迄

一、庄内ウ卜 同 三十四五兩方

四十七八兩迄

一、秋田はな

同

一、水戸同

同
四拾兩^五
六拾五兩迄

一、早庭同

同
四拾五兩^五
六拾五兩迄

一、近国同

百目二付
五匁^五
九匁

一、肥後同

同
七匁五分^五
九匁五分

一、伯州同

同
六匁五分^五
八匁五分

右之通ニ御座候、以上

大坂道修町東掘

近江屋安治郎

存候、随而当方無異嘉年仕候、乍憚御無意可被下候、誠

ニ右年頭之御祝詞申上度、如斯御座候、猶期永日之時候

恐惶謹言

正月五日

近江屋安治郎

与次兵衛

稻村七郎左衛門様

参人々御中

三〇 子之極金指引

金指引覚

一、金百四拾三兩式分ト

亥極月金指引残り

永井式匁三分八

内金百兩

閏二月九日おこの持参

引残り

一、金四拾三兩式分ト

右残り

永井式匁三分八

(裏面)

改年之御吉慶不可有尽期御座候、重畳目出度申納候、先
以貴御地御家内様、益御勇健可被遊御越年、珍重御儀奉

一、金貳百六拾九兩壹分

永井老奴五分八

但し未申酉戌四ヶ年、青芋惣勘定

子四月廿八日

一、金六拾八兩三分

永貳拾壹匁五分八

一、金四兩三分

永拾七匁貳分

一、金九拾三兩三分

永七分六厘

一、金五百七拾八兩卜

永貳拾壹匁八分七

一、金拾兩

惣勘定
是八百兩受取九拾兩晒買
則売り代夏勘定二而相渡

し

残り拾兩也

一、金百拾兩

一、金七拾九兩

干置買附受取申候

前田沢蠟代之内

四百六拾文

一、金六拾七兩

七月廿三日受取
蠟拾八箇代

一、金四拾壹兩貳分

壹匁五分四

十月二日受取

一、金五拾貳兩壹分

五匁四分八

蠟拾壹箇代
同日拾五箇

此永九匁三分三

一、金百六拾兩三分

永貳匁

右同斷

一、金九兩卜

永井貳匁四分三

一、金七兩貳分卜

永拾六匁九分

ノ金千五百九拾七兩三分卜

永五匁三分九

古手利之内残り

開荷着相濟二而

子為登紅花、古手

古荷掛り酒田へ御払

渡し

(虫喰)

一、金八拾五兩貳分

(虫喰) 酒田へ

此内

六百三拾貳文

晒七駄代

一、金三百兩

子ノ千花買
紅花仲間金へ御渡可下候以上

此永拾壹匁七分

内金五拾兩斗 楯岡大豆

一、金三百兩

八月廿三日持参渡し

一、金貳百三拾貳兩貳分ト 子ノ持孳買金へ

一、金貳百兩

十一月七日利助様へ

永拾八匁七分八 御渡可申候

一、金五拾兩

霜月廿六日久二郎様

一、金三兩貳分

岡分湯積也

右之通り相済申候、尤子ノ仕入惣相弘次第、右金御戻し

永升壹匁八分壹

可申候、以上

一、金四拾五兩

荏草代へ、越之分

丑二月六日 分

正月十六日

齋藤持参

△ 様

一、金貳百兩

久治郎江相渡ス

丑二月六日

当春残り覚

一、金貳百八拾兩

常営金へ

目録

子六月三日

永八匁五分壹

一、金貳百兩 藤屋伝左衛門殿かし

指引残而

内金百兩 今度右人方済持参御渡申候

金四百三拾貳兩貳分ト

引残而 元金百兩ト利足也

永拾八匁七分八

相済次第持参可仕候、以上

一、七十郎殿受取

正月六日

郎・五十嵐七郎右工門兩人請人ニ相立、証文差出可申
定候所仍如件

一、同 生々十三箇

寛政十一年末十一月

油屋 又兵衛

正月廿日

一、同 拾壹箇

稲村七郎左衛門殿

池田市郎右衛門
下代 幸右衛門

三一 柴橋御会所ニ而相對定之事

(商取引之義ニ付)

三一 巳仲間紅花目錄

柴橋御会所ニ而相對定之事

(表紙)
「天保十一年子五月七日

一、大小豆売代金仕切、去年年買入指為登、残巳年御札

買 目 録

米売買仕切、当年御札米売買仕切、并巳年預り金之利

足年年利足仕切差引目録相認、預り金高之内ニ而紅花

巳仲間紅花目錄

青芋、上方江為積登候懸り物、最上江為登候運賃懸り

物、次ニ買物差引殘金之義、御会所御兩人御理解を以

追々相濟候筈、并上下通り荷之分、別紙内濟議定証文

之通、為差登可申候条、相違無御座候、依之尾関大四

沖 拾八入
トヒ 八丸

酒田着代金八拾六兩三分

山のべ買

山トヒ 九拾貳袋

大寸トヒ 百貳拾四袋

露 四拾六袋

ノ貳百六拾貳袋

金百五拾六兩三分

三百八十文

外二

一、金壹兩壹分 袋代

六匁八分七 分払

袋百廿かへ

一、金貳兩 酒田迄懸り積り

酒田着

ノ金百六拾兩ト壹メ百八文

内金拾五兩ト袋代引

引残而金百四拾三兩三分 金指引入

三百八十文 三渡ス

跡 買

一、大小良トヒ 百袋

一、玉紅 百貳袋

一、光紅 七拾六袋

小買ノ高也

代金百六拾兩ト

貳百五拾三文

外二

一、金壹兩壹分 右袋代

拾壹匁八分七

代壹メ四百五十壹文

一、谷トヒ 六拾九袋

代金三拾八兩三分ト

壹匁三分九

代百四十七文

一、北トヒ 七拾八袋

代金四拾九兩三百三十文

春為登

惣々四百廿五袋

代金々式百四拾九兩壹分

三百三拾かへ

一、金三兩三分 懸り物

七々七百六拾九文

此金壹兩ト壹々三百六拾九文

酒田着々金式百五拾四兩壹分ト

壹々五百拾九文

々々金五百壹兩壹分ト

壹々八十七文

二ツ割

々々金式百五拾兩式分式朱

五百四拾三文

内金百四拾三兩三分 山のべ

三百八十文 御元金出し

指引残ル

金百六兩三分式朱 不足分立替

百六拾三文

右不足金指引ニ入、尤売代相渡申候、以上

午ノ極月 村井屋清七 ㊦

稲村七郎左衛門様

同 条之助 様

同 久治郎 様

三三三 青芋綿紅花商用書簡

(表紙)

六月十八日

青芋綿紅花商用書簡

△様 式拾式番

六月十八日

一筆啓上仕候、暑氣甚候へ共、弥御勇健ニ可被遊御座候、

珍重ニ奉存候、当方無異儀罷有候

一、青芋兎角不景氣ニ而、段々直付御座候へ共、漸々如

元付位なして参兼、扱々こまり申候、何れ七月切ニハ

売付可申上存候、左様思召可被下候、当月十日を照り上り候へハ、此分二而ハ晒布も少々ハ氣配直り可申候、左候へ者はる下ケハ無御座候、何分是迄地場不印故、引立兼申候、殊ニ稀作も雨統故、甚不作ニ相成候へハ、此末少々ハ引立高可有被存候、綿違ニ而ハ随分青亭入はつニ御座候、当年貴御地出来此順氣ニ而、宜敷可有与存候、是迄不引合之荷物御座候へハ、直段も下直ニ可有被存候、左候へハ国亭ハ何レも七月旬之売物と被存候

一、紅花之儀別而相替事無御座候、長雨故人氣しつまり申候、何様井日頃らハ商可有被存候、紅屋仕事此分ニ而ハ出来候間、何レ商事可有被存候、四月下旬五六月九日迄の内、一日ふりの一日照り、半分を余けいふり候様ニ存候、当月朔日より上り候ハ、只今頃ハ節荷物不残片付可申候所、何分ニも雨沢山ニ而人氣よわり申候

一、当月十日を照り上り候所、今日迄も雨一切無御座候、先此様子ニ而当分ハ雨有敷被存候、昼中ハ到而暑強し

のき兼候、夜中者涼敷候、此様子ニ而田作随分宜敷御座候、畑物ハいたみ申物可有被存候、江州極出し場、近年ニ無之十分ニ植付候所、段々の雨ニ而中下水底相成、残念成事ニ御座候、早稻之分ハ三番草迄仕舞候所、水場と申而是非なき事ニ御座候、凡江州ニ而浜方五十万石すたり申候、何多事ニ御座候

一、大坂米相場別而格別之高下無御座候、相場御入手可被下候、西国方ハ順氣能候様承り申候、花之様子ニ而照り被存候、併儲成事不承候へハ、難斗存候、酒田五月上旬ニ出船仕候、大廻り船大坂へ五月末ニ三艘計入船仕候、此様子ニ而ハ北西ハ照りと被存候、左候へハ近江・山城ハ近国雨多候へ共、外々ハ格別之事無之候哉に存候

一、雨統故綿木そたち弱候所、照統候間至而不宜敷候様ニ申候、当分ハ右庄三金ニ御座候、此末又々引立可申候様申事ニ御座候、扱々綿相場高下あしき事ニ御座候、此様子ニ候ハ、新綿高直可仕候、若酒田ニ而下直ニ成綿御座候ハ、御調可然被存候

一、西国紅花至而不足之由ニ御座候、仙北九匁五分方拾
匁ニ御座候、是も損金御座候由ニ而、地場不足物故登
り至而不足ニ御座候、肥後・筑後尔今登り不申候、不
足之由申事ニ御座候

六月十八日

麻屋久兵衛 印

一、貴御地順氣能御座候由、五月廿日出ニ申參候、仍而

稻村七良左衛門様

紅花草生余程直り候様、廿四五日頃より摘出し可申候

久治 郎様

様承り申候、全躰節之割合も少しおそ咲ニ御座候、併

御座下

何方ニも作り物故、皆節之割合ハおくれ申候、天氣事

故如何式候へ共、貴御地五月ハ雨有テ、当月成候ハ、

てりニ被存候、此方当月十日方てり、此方ハふりかち

三四 商用書簡集

貴御地ハ春も照りかちニ候へハ、新紅花半分てりの半

分雨に御座候、随分駄不足可仕候、直段之所如何可有

哉難計存候、当月三日書状今日中ニ届キ可申候、あ

らまし様子相知れ可申候

一、紅花・青芋相場之事

十四番七月廿二日大黒屋庄治郎出し

一、紅花攘方先達て十式漸々極り申候所、又々御本丸御

用呉服所方願出申候間、紅屋へ直売ニ相成申候、先つ

一筆啓上仕候、残暑強候へ共、益御勇健ニ可遊御座候

以広商事相成申候

一、金百兩也 此度下し申候

一、青芋仕切指引跡便り指下し可申候、如何様思召可被

一、同式百兩也 七月四日西谷伊兵衛殿下ス、為替ニ而

右之通御入手可被下候、青苧仕切指引下し度候へ共、南
仙当地仕切延引致し候間、跡便り下し可申候

一、青苧相場兎角不狩(マ)ニ而大きニこまり居申候、何とそ

引立候様願居候へ共、此様子ニ而急段引立申候事、如

何被存候、乍残念九月切迄ハ相場次第売付可申候、御

元直迄ハ無心許存候、少しハ御損金可有被存候

一、当新苧去年方三四割も安ク無御座候而ハ、引合申間

敷候、追々様子申上候へハ、御承知可被下候

一、紅花之儀貴地雨沢も能様子相聞へ候へハ、残花望人

無御座候而こまり居申候、尤直段ハ五六拾両と承り申

候、何ニ六つケ敷代り物と奉存候、御勘弁之上御為登

可被下候、新花ハ着早々相場次第売付、其格合ニ而残

花も売付可申候、残念ハ残花ハ御損金ニ相極り申候

此末とても引立ハ無心許存候へ共、当分代ル物若手物

故是切兼候

一、此上ハ紅花青苧共ニ、賣地様子次第第二高下可有被存

候、今相場も盆前引立、五拾八九匁上相場御座候、此

間ニ而ハ五拾六匁位ニ而持合申候

一、此度京大坂町家間口老間ニ銀三匁、遠国百姓高百石

ニ廿五匁、御公儀様御用金被仰付候、如何相成候事哉

いろ／＼之事出来申候、先達而被仰付候大坂御用金、

尔今いろ／＼成テ御座候

右申上度如此御座候、何事も跡方可申上候、恐惶謹言

麻屋久兵衛 印

七月廿二日

稻村七郎左衛門様

文治 郎様

二、紅花取引之事

(前欠)

△ 改極 四丸拾九入

△ 松多

△ 改極 四丸拾八入

△ 信約 内丸印四ツ入

△ さし苧ツ入

同 松紅 壹丸拾九入

右之通無事着、慥ニ藏入仕候、乍憚貴慮易思召被下候、

売方之儀者弥精相場無如才御取計可申上候

稻村七郎左衛門様

兵七

一、当所紅花商内之儀、秋暑退兼候、漸々当月ニ入追々

冷氣ニ相成、依之紅染方相始メ不申、殊之外静成事ニ

三、紅花入荷之事

御座候、当地遍之景氣不宜、其上縮縮緬之類高直故、

尚々幸八殿へ御伝言被下、忝承知仕候

不引合候趣ニ而、紅屋一統買方見合候而当惑仕候、早

庭もの先達而、少々とも相捌有之候へとも、是も此

貴札得致拜見候、弥御堅勝ニ罷成御座候由、珍重奉存候、此方無為ニ罷在候、然者此度御印紅花式太三箇御出被下、

頃節者少々行当り候姿ニ御座候、右之仕合ニ而、売買

無事着慥受取藏入仕候、随分指急キ能舟ニ積下可申候、

とも大緩ニ御座候、乍併此末段々冷氣相増候得ハ、多

尤添金式兩三分迄被仰遣候へ共、春方御有合金式兩請取

少とも追々相捌可申、何卒御一統様御利潤ニ相成候様

申候、不足分手前方足金仕候、都合致遣可申候、委細幸

祈申上候、当年者諸国一統二代呂物、去年二者見落申

之助殿之御咄ニ而、御承知可被下候

候而、売方心配仕罷在候、何卒順商売立候様に勤居候、

一、当十九日山形出御印紅花、都合五太片馬、今日船積

先ハ右之段申上度如此ニ御座候而、期後喜之時、恐惶

仕候間、近々酒田無事着可仕と奉存候、右之報迄早々

謹言

如斯御座候、尚期貴便候、恐惶謹言

閏八月十二日

六月廿一日

平崎作右工門

伊勢屋理右衛門

印

和七

稻村七郎左衛門様 参御中

嘉七

四、紅花代金之事

尚々貴地方四月廿二日出し御状拝見仕候、

猶不響御用向者、仰付可被下候

以鳴屋便一筆啓上仕候、薄暑之砌御座候処、先以其御地御家内様倍御安康可遊御座奉賀候、随而当方無異儀罷在候、乍憚御安意思召可被下候、然者爰元紅花商事之儀、

去冬中乍下直も相応ニ売揃ニ付、当春之処越年荷高無数之含ヲ以、一花引立商事可有之奉存候処、何分地庭不景

氣ニ而紅染物至て不揃、依而漬方一統相減じ、却而當時之殘荷凡四百駄余も可有之奉存候、尤も旧冬方ハ氣配不

宜、大略相庭左ニ

一、最上 廿五六兩方

三十七八兩迄

殘荷多分有之

一、奥南 三十七八兩方

南部 四十七八兩迄

殘荷相応ニ有之

一、水戸 三十五六兩方

四十五六兩迄

殘荷無之候

一、古河 廿五六兩方

桶川 四十五兩まで

殘荷無数ニ候

右之趣ニ御座候得共、此後新花善悪ニ順ジ、高下可有之奉存候

五、諸相庭之事

一筆啓上仕候、嚴寒之砌御座候得共、先以貴御地表御家内様、益御勇健可被遊御座、珍重之御儀ニ奉存候、随而愚拙義無異在京、乍憚御安意思召可被成下候、然者当所成行之義、追々先便申上候通、順着御承知可被下哉ニ奉存候半、先月中糸荷切ニ而大掛直出来、浜附金百八拾五兩位迄取引有之候趣ニ御座候得共、遠国之荷主中一向持合も無之、糸問屋仲間直段、右様出所ニ相見得申候、其後少々ツ、不人氣ニ相成り、格外高直過之事故、西陣ニ

而も喰続丈ケ計買入見込人一向無御座候而、五六日以前迄ニ、浜附金百七拾五兩位ニ仕計候処、此間中諸国方当分入荷ニ相成り、当節ハ金百六拾八兩百七拾貳兩位迄ニ相見得申候、格外大高下之年柄ニ而、睨と直段も相定め不申、手印荷物中仙道筋大雪ニ而、存外之延着当惑仕候中、一昨并三日拾箇無事着いたし、残荷者早春ならては着荷相成不申与奉存候、右着荷之分、昨日方向々江相引合、是非年内売申度出情罷在申候、併し直段者金百六拾兩位、細物・玉鶴・飛鶴・米鶴是迄と違ひ、当年者ふど物はやりニ而上もの一向直上ケ不申、乍去大高直之年柄跡々変化難計、高利品揚故右之振合ヲ以、一兩日之内見切可申、此段御承引可被下候

一、仙台金花山宮城金百拾五兩位、浜附百六拾八兩百七拾貳兩位迄、五百川辺百六拾兩位ニ申居候

一、近林殿江為替金五百兩也御取組申出候趣、否貴公様方御案内可被下筈之旨、友太方申来、如何之事ニ御座候哉、御取組ニ相成候ハ、当所ニ而手形引替、早速相渡可申、当年者山形衆紅花一向相諸附不申ニ付、此

方ニ而如何様ニも為替取組方被致候間、御心配被下間敷候様御頼申上候

一、大坂買物者近頃諸相庭追々引、中々御地引合ニ相成候見詰無之、乍去正月中ニ相成候ハ、買間も可有之候哉ニ奉存候、何れ買附次第、早速御案内可申上候、坂上繰綿卷メ五百五十匁、生蠟卷メ六百匁、砂糖三匁、式分五厘金八拾三兩、右之振合ニ御座候、此後直落相成候ハ、多分仕入方可申、此段御承引可被下候、克て右之段御案内申上度、押詰メ余日も無之、嘸御繁用奉遠察候、折角御取仕舞可被遊、猶成行変化次第重便可申上候

文略如此ニ御座候、恐惶謹言

十二月廿五日

今井五郎八

稻村七郎左衛門様

幸次郎様

六、紅花相庭之事

甚暑之砌御座候得共、御尊家様益御勇健被遊御座之旨、珍重御越奉大賀候、然者先達而御印傘四籠・砂ト拾丁・生蠟四丸着仕候、則蔵入仕候、此段御案内申上候

一玉砂ト貳挺当町売子江売拂申候、尤直段之義者、拾六斤七分かへ売被申候間、此段不悪御承引可被成下候、代金之義者一兩日中差上申候間、是又御承引可被成下候

一紅花之儀惣雨ニ而随分出来も宜敷、只今戦心真最中地廻りニ而六拾兩五五兩七拾兩まで船町七拾兩五五兩迄、長崎八拾兩五八拾五兩迄、夫五中郷九拾兩五之模様御座候、随分珍々走相場、駄不足之儀者、実に五分作二者相違も無之哉与奉恐察候、御考勘之上御見込御座候ハハ、御用被仰付被下度奉願上候、先者右之段御案内旁、得貴意度早々頓着

七月一日

久助

稻村七郎左衛門様

七、青苧代金之事

一筆啓上仕候、先以貴御地御家内様御揃、益々御勇健ニ可被遊御座候、珍重之御義ニ奉存候、当方無異義罷居申候

一、二月十二日出之御状々森谷九内様五申参り候、先達而森谷氏御下り中、勘定申上候所、相わかり不申段被仰下申候、如何之間違ニ御座候ト奉存候、此方ニてもとんと相分り兼候、此方五二月十二日出し候惣差引目録、紅花差引綿差引右之通り差下し申上候、今頃ハ相達し御承知可被下哉ト奉存候、右之差引ニて間違御座候ハハ、早々可仰下候

一、三月切青苧代凡七貫目計受取申候、右之銀子金二直し百拾兩余り、右の通りニ御ざ候間、此度歩判金五拾兩也、しまや飛脚にて分へ向ケ差下し申候、御受取可被下候、外ニ四拾兩ハ村居氏五相渡し可申候、都合ニて九十兩也御渡し可申候、御受取可被下候、別紙中勘御らん可被下候

一、下拙義も一兩日前より、少し不快ニて伏し居候間、

青苧仕切委細之義ハ、跡ヲ可申上候

右之内

一、久太郎様御身も当地へ先月晦日ニ、御機嫌よく御着

一、拾貳両計 二月十二日下し

ニ御ざ候、尔今ニ当地ニ御逗留ニ御座候程なれ申、右

差引不足

様ニ御承知可被下候、右御同人様へ道中金拾貳両計、

一、拾貳両也 久左郎様へ

御渡し可申上候はずニ御ざ候、右様ニ御承可被下候

御取かへ

一、青苧之義も段々申上候とふり、別而相替事無御ざ候、

一、九十両也 此度下し金

何分不段望人曾無御ざ候、扱々こまり居候、尊公様之

御状之表ニてハ、余り下直ならハ少々見合被申様被仰

右之通り御印御引合申候

下、承知仕候、先々跡々ハ見合可申候、先右之段申上

三月七日

度、早々如斯御ざ候

恐惶謹言

△印様

三月七日 あさや久兵衛 ㊦

稻村七郎左衛門様

八、紅花相庭之事

久次郎様

貴下

鳴屋飛脚一筆啓上仕候、春暖之砌御家内様御揃益御勇健被遊御座、珍重之御儀奉存候、随而愚拙無異儀京着仕候、乍憚御休意思召可被下候

覚

一、爰元紅花當時緩々仕、何分三月静成義と申事ニ御座

一、百拾兩余 三月切青苧代

候、左様得ハ四月初メ方ならて、荷物相払候義六ツ敷

相見江申候

一、此節紅花間屋紅屋にくみニ而、一向商ひ出来不申、
長々之逗留相成、御申分無之相働手舞仕候、帰国之上
御申訳旁申上度、如斯御座候、恐惶謹言

同 丹二郎

三月十三日

七二郎

稻村七郎左衛門様

九、紅花・青苧相庭之事

一筆啓上仕候、寒氣甚しく候得共、先以て貴御地御家内
様御揃益々御勇健ニ可被遊御座、珍重之御義ニ奉存候、
当方無異義罷在候、憚ながら貴意易思召可被下候

一、紅花之義追々御承知可被遊候とふり、別而相替事無
之候得共、何分下直成直段ニて、一向ニ商内無御ざ候、
何れも荷主大損金出、扱々打続キ不徳計ニて、大キニ
なんぎ成年柄ニ御ざ候

一、青苧之義是又追々御承知可被遊候とふり、不徳計申
居一向商内無御ざ候、何近々森九様一兩日之内ニ御下

り御ざ候、委細御承知可申候

一、御印間替苧之儀もあまり下直成直段ニ候得共、不徳
成時節ニ候得者、無抛ト奉存候て、残り之分半分売附
左ニ印

△トヒ門伝 三駄片馬

代五百五拾匁かへ

子ノ二月切 ふじや忠兵衛

右の通ニて此間売附申候、左様ニ御承知被下候

一、繰錦之義是又追々御聞及之とふり、段々下直ニ相成
り申候、御印分も少々森九様御仕入も損之趣御ざ候、
此節ニてハ少々引上ケ候様子ニて、先々大悦ニ奉存候

一、当年新苧南部へ御差荷被成候義、承知仕候、先にも
参上仕間かけ合候得共、不徳ニて望人無御ざ候、扱々
こまり居候、

一、御印青苧之義、先達而惣差引書、荷物改書差下し申
上候節も、鳥渡御断申上置候とふり、御印之内ニて片
馬過ニ相見へ申候、△印ニて片馬不足いたし居候間、
応方貴公様過之分、去年木津宿高水之節、荷物間違申

候様ニ申居候、とふぞ御改之上、代銀ニて森谷氏へ御渡し被下候、委細は九内様江御咄し申置候間、御様子御聞可被下候、此度別紙之荷物改書差下し申上候、御らん可被下候、先ハ右之段申上度、早々如斯ニ御ざ候、恐惶謹言

十一月卅日

阿さや久兵衛

稲村七郎左衛門様

久治郎様

貴下

十、紅花作柄之事

一筆啓上仕候、未残暑甚しく候得共、先以貴御表御家内様、益々御勇健ニ可被遊御ざ候、珍重之御義ニ奉存候、隨而当方無異義罷居候、

一、貴御地当年ハ雨都合よろしき様子ニて、紅花上出来之様ニ、京都表ニてハみなく咄し居候、如何之御事哉、とふぞ当年少々利分得度奉存候、在之様子ニて京都表は、紅花之相庭一向安ク奉存候、早所水戸・上総・

古河辺之紅花も、はしり少々ツ、才料持ニて雲り居候得共、何分最上・仙台上出来と奉存候間、一向ニ取メリ商内居御ざ候、只格別ニ安い物ならでかい入不申、何としても御地之紅花上着之上ならて、諸方之相庭取メリ不申哉ニ奉存候、当年、日本中之紅花出キみなみな相応之作と申参り、何近々盆後ニハ諸方之花も京着仕、相庭相極り可申哉と奉存候

一、繰綿之義、当年ハ先ス今日まで格別のさわり無御ざ候、此分ニて参り候ハ、当年ハ下直之相庭ニ相成可申哉ニ奉存候、併しくり綿計ハ当月来月二ヶ月之間にて、色々相替り申候間、此節ニてハ何共相知レ不申候、先草綿之所ニてハ、先此節まで之所ニハ、一向ニ申分無御ざ候上作ニ御ざ候、御勘弁被遊御注文可被仰下候、一、此度下し物左ニ

青苧差引書

同 目錄書

一、からかさ 仕切書

同大坂かい物 仕切書

右之通り差下し申上候、御引合可被下候、間違等有之候ハ、早々可被下候、仕切差引書別紙之とふりにて、相替り可申哉、乍憚とくと御引合可被下候、少々残分不足ニ御ざ候、跡方御差引可申上候、先ハ右之段申上候、早々如斯ニ御ざ候、恐惶謹言

あさや久兵衛 ㊦

亥七月三日

稲村七郎左衛門様

久治 郎様

貴下

尚々青苧荷物御断候方、先達而より追々仕切下し居候所、此度残り之分左ニ印、間替飛薄六艘片馬六連、御預り相成り申候、右之残り荷惣高よく勘定いたし候所一駄計過ニ貴様へ仕切下し居候、如何之間違ニて過に相成候哉ト奉存居候所、たて岡△印ニて片馬不足申参り候、応方之印間違ニて、貴公様之仕切出し候哉と奉存候、此間△印不足之義、南部へ戻し申遣し候得共、

尔今以相わかり兼候、応方吟味仕候ハ、貴様方へ仕切印間違奉存候、猶又跡方可申参り候間、其節ハ金子御揃可被下候、斯義も南部問屋ニも、長持の荷物ゆへ、色々間違居候て、急段にわかり兼候へハ、右之段一寸御願申置候、早々以上

㊦

三日

△ 様

十一、紅花・諸品荷物之事

山形松本忠七様御下り被成候ニ付、一筆啓上仕候、追日向暑ニ御座候得共、貴御地御家内様弥々御安康ニ可被遊御座、珍重奉存候、当分無異儀罷在候、乍憚貴意安思召可被下候、

一、先月八日出以書状得貴意候、相達し彼被見可被下奉存候、其節紅花壳仕切等差下し申候、御請取可被下奉存候

一、大生印紅花片馬之義も、其節御断申上候通り、色々

詮儀仕候へ共、高生印同様直段ニ者中々参り不申、夫故売口遅成申候、乍併見合置候而も、差而相替義も無御座候ニ付、無拗乍下直式丸共此間売払申候、則若山屋喜右工門殿より、売仕切忝通御引合被遊、御覽可被下候、定而思召ニ者相叶申間鋪と奉存候得共、当時ニ而者随分出情詮義之上之直段ニ御座候間、左様ニ思召可被下候

一、紅花代金間替芋代金之内へ、金百五拾兩ニ貴御地山形市村弥兵衛殿江為替ニ取組、四月晦日渡りニ而、則為替証文言通、村居清七様方へ先月八日出ニ差下し申候、定而相届キ右金子之儀、清七様江御請取被下候間、貴家様へ御渡し可被下候ニ付、定而無相違御請取被遊可被下与奉存候

一、去年中々被仰下釣鐘之義、出来仕候ニ付、先月中大坂向酒田尾関又兵衛殿へ差下し申候、追而無事着可仕候条、御請取被遊可被下候、外ニ梅慶寺様方箱荷物式箇、先達而尾関又三郎殿へ差向差下し申候、是又着之節御請取被遊可被下候

一、諸売仕切御買物目錄差引書等、相認差下し可申奉存候処、駄運賃諸掛り物等未々睨ト相知レ不申候間、相知次第差引書仕着下し可申候、左様思召可被下候

一、米沢芋酒田囲之儀追而上着可仕候ニ付、随分出精私方ニ而も売付可申様、先達而被仰下忝承知仕罷在候、然ル所御印青芋御荷物之義も、追々無事着仕候段承知大慶奉存候、乍然不殘南部両家行計ニ而、私方へ御指図御荷物未々忝箇も着不仕、無心元奉存罷在候、是迄之分不殘南部表江之送り手板計ニ而御座候、不寄多少御荷物不相替、私方へも御支配被仰付可被下候、奉願上候、右ハ申上度旁早々如此御座候、尚期後喜之時候、恐惶謹言

藤屋忠兵衛

印

五月廿三日

新介

稻村七郎左衛門様

参人々御中

十二、紅花相庭之事

尚々協差御内ニ而預り被成下置候ハ、

大丈夫ニ案心仕候、右御願申上候、以上

一筆啓上仕候、残暑之砌ニ御座候処、先以貴御地御家内様御揃、益御勇健ニ可被遊御座候、珍重之御儀ニ奉存候、隨而下拙義無異罷在、乍憚御休意思召可被成下候、然者先達而御土被成下候節、御咄し申上候脇差之義、尊君様御帰宅被遊候後、宮宿へ御出御取寄被成下置候様、南ノ姉より御断有之候、此段難有仕合御礼奉申上候

一、紅花之義当年殊ニ駄不足之様子ニ御座候、尤直段下郷極上物六十四五両より、七十両位迄之相庭ニ御座候一、米相庭当月廿日迄不天氣統、廿一日も御天氣統、三九入壹分式朱式百文之処、其御天氣統候故、壹分六百文迄直下ヶ仕候、先ハ右之段御礼旁申上度如斯ニ御座候、以上

六月廿八日

△内 千代七

稻村七郎左衛門様

十三、紅花・青芋代金之事

一筆啓上仕候、未残暑嚴敷御座候所、弥御機嫌能可被遊御座、珍重ニ奉存候、此方下拙無異ニ罷在申候、乍慮外御休意可被成下候、然者昨日も□取申四固髓ニ受取申上候、今日も四固御渡被下度奉願上候、内式固ハ上掛ヶ渡被下候様被成被下度、小々買等ニ仕度奉存候間、如此御願申上候、一昨日御送り被下候八固之内、下拙堅物式固相見江申候間、足仙台行ニ仕度候、右御願申上度如此御座候、恐惶謹言

一先売付候干花、今日相渡申答ニ御座候、左様御承知可被成下度奉存候、依而明日欵明後迄ニ罷上り品々可申上候、青芋義も品々被仰聞、難有奉存候、少々買入候得共、北郷も余り高直故差控居、北郷五十、五十四五巴ならてハあかり不申候、若思召も候ハ、被仰聞被下度奉願上候、右申上度如此ニ御座候、以上

八月十一日

高橋久四郎 印

稻村七郎左衛門様

十四、青苧相庭之事

一筆啓上仕候、先以秋冷ニ御座候所、弥御機嫌能可被遊御座、珍重之御義ニ奉存候、此方下拙無異罷在申候、乍

慮外御休意可被成下候、然者先日者罷上り、乍每度御地乞様ニ相成、難有奉存候、其砌申上候仙台出し上掛ケ蠟

色宜敷品、今日此者共ニ式駄御渡被下度奉願上候、且又

北郷辺青苧も差而下直ニも売人相見江申候、五百川辺五

十式三巴ニも揚申候ハ、此節御買被遊度申候、可然様

奉存候、北郷ハ五十巴ならてハあかり不申候、此後一花

ニ克買立候様奉存候、越中衆買方は迄者沢山ニモ相見江

不申候、依而一花商立候半と奉存候、右申上度如此御座

候、恐惶謹言

亥八月六日

村居清七様出

△本雨 四丸紅花

右御同人出

同久雨 三丸同

同久山 老丸同

村居文蔵様出

同雨紅 四丸同

〜

右之通水上相改候而、御手板之通此元無滞、早速差為登

申候間、御休意可被下候、追々御用被仰付、千万忝次第

ニ奉存候、右着御案内迄早々申上候、恐惶謹言

田保孫右衛門 印

八月八日

稻村七郎左衛門様

十五、紅花為登荷之事

一筆啓上仕候、先左様御清情可被遊御座、珍重ニ奉存候、

当方無異儀罷有候、然ハ庄内登り入船江御積為登荷物、

到着左之通

十六、蠟代金之事

尚々手形金相濟候迄て、内々相庭引メ候ハ、式
メ式百五十匁積りニ而、勘定可申答ニ候間、此義
も先方へ御掛引可被下候

此間御咄被下番蠟之義ニ付、今日山之辺代屋様外御客御
忝人、御差出御状被成下、依而直段相掛合候処、金五十
両内金拾両手金ノ定メ、殘金者漆山誰賤借り主小八殿
引請証文ニ而、取組直段者式メ三百匁九月晦日切、尤右
限日中相庭此節、少々なり共引メ候ハ、五拾匁ツ、
直上ケ可申答ニ約定申候間、此段御承引可被下候、扱明
明後兩日中、里方へ紅花御買入方へ御出張之趣、御兩人
御咄しニ付、近頃御苦勞千万ニ奉存候得共、此取組方小
八殿宅迄御出被下、請手形表限日中、当人不抱弁濟答ニ
候間、其俣睨と御引合方御願申上度、尚跡々取組之義も、
右同様延金ヲ以取引可申義ニ候間、其節者此度同様手形
ニ而、小八殿添状有之候様ニ致し度、此度も請手形面間
遠無之趣、御同人直筆之状一通御受取被下度、後々見本
之為メニいたし度、何分御堅慮之上、宜敷御取計被成下

度、実者此方ニ而一向不存御人ニ候間、尚念入睨与御相
対旁宜敷様ニ御取付奉願上候、右御願申上度、当用如斯
ニ御座候、早々以上

八月八日

⑤

△御印様

一、金四拾両也

右貴殿方買請候番蠟代金、預り申処実正也、尤当九月晦
日限り、此手形引替請人方正金相渡可申候、其内何様之
義有之候共、少茂違變無之候、為日延金手形如件

商人

引請人 小八

右之通いたし度候間、御堅慮之上宜敷奉願上候、
以上

十七、諸品荷物之事

久太郎様登付一筆啓上仕候、未残暑之節御家内様弥御勇
健被遊御座珍重御儀奉存候、此元無異儀罷有乍憚貴意安
思召被下候

一御印紅花近々御積下シ被成下忝仕合奉存候、当年柄御影以相応賑ひニ相成大慶奉存候

則無事着海舟積付等別紙入貴覽候、御休意可被成下候

一此元様子之儀、先書申上候相達御覽可被下奉存候、然

者御注文塩其外御買物之義、小物之分有合候品者、夫々

相調為差登可申、追々御受取可被成下候、塩之義年々御

入用之事故、其手配不仕と申ニハ無之候得共、乍思行届

さる義何難洪之事のミ有之、久太郎様方段々被仰聞候

所江挨拶ニ当惑仕、一言之御申訳無之次第、何分差登可

申趣御挨拶申上候、依之買置塩三百五拾石ほと御座候間、

何分右之塩何レカ工面仕、追々造立為差登候様可仕候、

跡百五拾石之所此後海舟入津次第相調、都合五百石冬中

迄追々為積登可申、左様御承知可被成下候

一去冬方御下シ被成下候大小豆之義、久太郎様御尋被成

下候、右之義先書楯岡弥五兵衛様ヲ以、村居清七様迄申

上候通、是又重々御申訳無之次第、定而御聞可被成下哉、

当年甚難儀之事共ニ而、不忠実儀を失ひ絶言語御下墨恐

入奉存候、何卒此処幾重ニも御隣愍御思召ヲ以御引立被

成下置候様奉願上候

此方内々行廻り之義久太郎様御見聞被下候、外方別而之

六ヶ敷かかり合と申も無御坐候得共、当用何分差聞心外

之義、乍思不実之義出来残念奉存候、随而格別家風相改

候事ニ付、先書申上候通、以来取究メ之所、御賢慮奉得

度来月中一と先親類共差遣申度奉存候、其節何分御隣愍

之程奉希候

一米札受附之義、先書申上候通御承知可被成下、此度久

太郎様ニも御持参被成度由被仰候ニ付、又々乍行事相認

差上申候

一当地作合先書之通是迄順氣一点之一分無御坐當時至テ

見事御坐候、此通ニ而風難無御座候ハハ、大豊作可仕候、

御地も定而豊作と御同慶奉存候

一米之儀尔今舟不足、旁々久々數買人無之所当作申分無

之、荒米杯方自然ニうり崩シ日々引下一昨日現金三拾貳

匁、当月切卅貳匁半、昨日ハ落引ニかかり候故うり方方

押かけうり人出、当月切三十貳匁八分出候所、任買人出

三十貳表三分貳分と心得、貳分ハうり人四分之買人ニ而

大引仕候、新米十一月切商、当時米相場引合ほと二ハ引下り不申、三十三表半うり人三十五表之買人ニ而商出不申大引仕候、此順ニ候ハハ最卒と引下り可申哉と奉存候、乍去近年無之安直段故、もそつと引下候ハハ諸人買氣ニ訴可申哉、左候ハハ又相庭引べり候様可相成哉と奉存候、何レ此節之安直を舟手か思わく付可申哉奉存候、御勘弁被成下思召入之義も御座候ハハ、追々被仰下度奉存候、先ハ此方之義申上候旁現相庭様子申上度如此御座候、余ハ久太郎様を可被仰上文略仕候、猶追々可申上候、恐惶謹言

七月廿九日

尾関又兵衛[㊦]

稲村七郎左衛門様

同 久米之助 様

同 久治郎 様

貴 下